

札

四年 画数 5
筆順 オ ン サ ツ
フ ン だ



神さまの前にすわって拝札する形を表した「し」(札³年41)と、「木」とを組み合わせて作った字です。

神さまからいただく「おふだ」を表した字です。むかしは、みな「木のおふだ」でしたが、今では、「紙のおふだ」もあります。

おふだには字が書いてあるものですから、「字の書いてあるもの」の意味にも使われるようになりました。【例】表札、鑑札。

また、「お金」や「きつぷ」の意味にも使われます。【例】千円札、出札口、改札口、検札。

▽ぶあつい札束が落ちていたので、びっくりしてひろってみたら、おもちゃの札束でした。

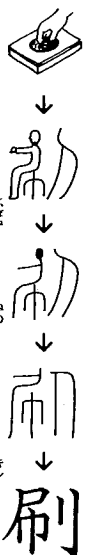
▽駅の改札口で待ち合わせをしましたが、相手はなかなか来ません。変だと思って、もうひとつの改札口へ行ってみたら、案の定、そこに居ました。改札口で待ち合わせる時は、どこの改札口か、しっかり打ち合わせしておかないと、大変だということがわかりました。

熟語例

- ▽表札 (名前を書いて、門や戸口につける札)
- ▽鑑札 (役所が発行する、何かの商売や行為を許すという証明書。「犬を飼うことになったので、鑑札をもらって来た」などというふうには、つかいません。)
- ▽出札口 (駅で、切符を売る所)
- ▽改札口 (駅で、切符を調べてはさみを入れる所)
- ▽検札 (電車の中などで、車掌が切符を調べること。)
- ▽札束 (お札を束ねたもの)
- ▽入札 (物を買ったり、何かの仕事を請け負ったりする時に、その金額を紙に書いて出して、その中で一番良い条件を出した者と契約を結ぶというやり方)

刷

四年 画数 8
筆順 コ フ 肩 刷
フ ン サ ツ
す じ ろ



人の形を表した「尸」と、「布」の意味の「巾」と、「刀」の意味の「リ」とを組み合わせて作った字です。「人が「布」や「刀」を使って、よごれを取りのぞく」ことを表した字です。

ふつうのよごれは、布で「こする」ことで取れますが、ひどいよごれは、刀でけずり取ります。それで、「よごれを取りのぞく」という意味を表しました。「今までの悪い所を取りのぞく」という意味にも使われます。【例】刷新。

また、むかしは版を「けずり」、版の上に紙をのせて「こすり」印刷しましたので、「印刷」という意味にも使われるようになりました。印刷することを「する」というのは「こする」ことです。

使い方

熟語例

- ▽今までの悪習を刷新して、より良い生活をするように心がけましょう。
- ▽むかしは、印刷するには、大変てまがかかりました。それだけに、刷りあがった時は、喜びもひとしおだったでしょう。
- ▽刷新 (悪い気風を取りのぞいて、新しい良い気風にすること。)
- ▽印刷 (文字や絵を刷ること。印刷技術は、むかしと今とは、大変に違います。また、いろいろな印刷方法があります。みなさんは、どんな印刷法を知っていますか?)
- ▽増刷 (増し刷り。本などを印刷したあと、また、追加して印刷すること。「この本は、大変好評だったので、増刷することになった」などというふうには、つかいません。)
- ▽縮刷 (縮めて印刷すること。「新聞の縮刷版を閲覧させてください」などというふうには、つかいません。)